

貸出用防災教育DVD一覧（一般向け）

令和3年3月16日更新

No	タイトル	視聴時間	種別	内容
1	地震だ！その時どうする？ 自分を守り、みんなで助け合おう。	約18分	震災	地震発生の仕組みから、発生した際の初期対処方法などを紹介しています。 過去に発生した大地震の被災地やインタビューを通して、地震が起きたときにどのような行動をとるべきかを学びます。合わせて自助や共助について事例を通して学びます。 【2009年作品（総務省消防庁）】
2	今すぐできる！家庭防災 ふせごうー家具等の転倒防止対策ー	約21分	震災	家庭における防災として、家具等の転倒防止対策の必要性を学び、実際に今すぐ取り組むことができる対策などを紹介しています。 【2009年作品（総務省消防庁）】
3	高層住宅の震災対策 必ず来る大地震！今！備えること！！	約20分	震災	関東地方南部に震度6強（マグニチュード7.3）の地震が発生したと想定し、予め大震災に対して“備え”をしていた場合と、“備え”がない場合で、被害が大きく違うことをドラマ形式で比較検証。 高層住宅における震災に対する心構えなどを解りやすく説明し、普段からの“備え”に対する必要性や重要性を解説しています。 【2010年作品】
4	津波から生き延びるために 知る・行動する	約15分	津波	平成15年に発生した北海道南西沖地震や、平成16年スマトラ沖地震が原因による津波災害事例を通して、津波が発生する原因や津波の恐ろしさを学びます。 また、津波が発生するサインを察知し、生き延びるために適切に行動することの大切さを学びます。 【2010年作品（総務省消防庁）】
5	被災地から伝えたい テレビカメラが見た東日本大震災	約105分	震災	自然災害の恐ろしさを後世に語り継ぎ、あの日のことを決して忘れないためにー 東日本大震災の「映像記録」と「証言」DVD 【2012年作品】
6	自分の命は自分で守る ー津波災害への備えー	約96分	津波	東日本大震災を教訓とした防災教育用教材。 ・津波災害の状況＜映像資料編＞（約40分） ・津波のメカニズム＜科学解説編＞（約5分） ・津波から避難するには（約19分） ・津波から避難する文化を築き、豊かな生活を＜総括＞（約4分） ・学校・家庭における防災指導＜教師・保護者編＞（約28分） 【内閣府】
7	平成20年5月18日 調布市不発弾処理の記録 ～1万6000人が一斉避難 その舞台裏～	約14分	不発弾	平成20年に調布市国領町で不発弾が発見された際の不発弾処理記録DVD。 処理の裏舞台で奮闘した人々の克明な記録と戦争体験者の証言が綴られています。 【2008年作品】
8	指揮官たちの決断 東日本大震災と自衛隊	約55分	震災	2011年3月11日ー 東日本を襲った未曾有の大震災 そのとき、自衛隊はどう立ち向かったのか… 各指揮官へのインタビューと、貴重な映像をもとに、そのとき、指揮官はどう決断し、どう行動したのか。 前代未聞の10万人態勢の舞台裏を記録したドキュメンタリー。 【2012年作品】
9	避難所の開設・運営 その時、皆さんの力がが必要です	約17分	震災	全国の市町村で防災・減災の取組みが進められる中、災害時の避難所に関する事項が新たな課題としてクローズアップされています。本DVDでは、一般市民の方々に向け、地域の防災拠点としての避難所の役割、開設・運営の流れ、東日本大震災で得られた教訓などを分かりやすく解説します。 市民自らが避難所を運営する一員であることを強く訴え、地域の共助力をより一層高めることを目的とした市民向けの防災・減災DVD。 監修：内閣府「災害時要援護者の避難支援に関する検討会」委員 法政大学大学院 講師 鍵屋一 【2014年作品】

No	タイトル	視聴時間	種別	内容
10	地震に備えて今、やるべきこと 緊急地震速報が流れたら、どうする？	約23分	震災	平成19年10月1日から、緊急地震速報の一般への提供がスタートしました。このことによって、大きな揺れが来る前の数秒から数十秒をどう効果的に使い、被害を減らすかというのが、地震対策の重要な課題となっています。また首都で直下型地震が起こった場合、高層ビルを日常的生活空間とする人々を襲うであろう、エレベーターへの閉じ込めなどの様々な問題、あるいはおびただしい数の通勤・買い物客が帰宅できなくなるという「帰宅困難者」の問題など、現在の都市ならではの新しい問題に対応していかなければならない状況になっています。本作品では、緊急地震速報という新しいシステムや「高層難民」「帰宅困難者」といった新しい問題を踏まえつつ、いかに命を守り、被害を減らすかその地震対策をわかりやすく学びます。 監修：首都大学東京（東京都立大学）工学博士 中林一樹 教授 【2008年作品】
11	知ってよかった応急手当 ～災害・事故・急病から命を救う～ ＜ガイドライン2010対応＞	約43分	応急手当	2011年に起きた東日本大震災をきっかけに、日本各地で住民一人ひとりの防災力・救助力を高め、「自助・共助・公助」の連携を強めて、安全・安心な町づくりを実践していく動きが急速に高まっています。本作品は中学生・高校生向けに、頻繁に地震、気象災害などが発生する昨今、災害・事故・急病などに遭遇した場合、どのように応急手当や救命処置をしたらよいのか？小さなケガの応急手当から、心肺蘇生法やAEDの使い方までを身につけることができるように、わかりやすく解説しています。 (DVD2枚組 1巻 応急手当編 …約20分、2巻 AEDと心肺蘇生法編 …約23分) 【2014年作品】
12	フィクションドキュメンタリー 荒川氾濫	約15分	水害	地球温暖化などの環境変化が進む中、異常気象などが深刻な課題となっております。もしも未曾有の大雨によって、荒川の堤防が決壊した場合、どのような被害を及ぼすのかを、資料映像やCG映像などによって、フィクションドキュメンタリーとしてまとめるとともに、堤防決壊のメカニズムや水害時の避難先などの防災知識をわかりやすく学びます。 【2017年作品（国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所）】
13	大雨や台風から命をまもるために！！ あなたはそのときどうする？ 大雨や台風から命を守る	約39分	水害	水害に関する知識、大雨や台風から命を守るためのポイント、早めの避難行動の重要性についてわかりやすく解説する映像です。大人向け映像には、水害発生時の避難方法の再現ドラマや被災経験者へのインタビューを収録しています。 ※幼児・児童向けNo5「大雨や台風から命をまもるために！！大雨や台風から命を守ろう！」との2枚組になります。 監修：東京大学生産技術研究所 加藤孝明 【2018年作品（東京都）】
14	みんなの東京防災ガイド	約23分	震災	東京は、首都直下地震や台風などの自然災害に加え、テロや大規模事故などの様々な脅威に直面しています。そんな中、どれほどの人が日頃の備えをしているのでしょうか？多くの人々が「もしも」に対応する知識をしっかりと身につけ、連携すれば、多くの命を守ることにつながります。本作品は東京都の防災への取組を多くの方々に知っていただき、災害への備えをしていただくことを目的としています。 【2020年作品（東京都）】
15	消防団加入促進DVD	約25分	消防団	消防団の活動を紹介するPR動画集。 一般向け、女性向け、学生向け、企業向けの紹介映像です。 それぞれ、ロングVer.（約5分）とショートVer.（約30秒）があります。 【2020年作品（総務省消防庁）】
16	助ける、助かる 検証 西日本豪雨	約22分	水害	西日本を襲った「平成30年7月豪雨」により、土砂崩れや河川の氾濫が広い範囲で同時多発的に発生し、200人以上の死者を出す未曾有の災害となりました。日本では水害が毎年のように起きていますが、今後は地球温暖化の影響で、ますます激しい大雨が増えていくと懸念されています。本作品は、まず大雨が発生する原因とそれがどのような危険を生み出す危険となっていくかを、過去の豪雨被害の実態と被災者の声を紹介しつつ、イラストやCGを組み合わせてわかりやすく解説します。そして、危険が迫っていることを事前に知るための情報収集の方法、気象庁などから出される災害情報の内容を紹介します。さらに、いざというときの身の守り方や、日頃準備しておくべきことを学びます。 監修：東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 特任教授 片田敏孝 【2019年作品】

No	タイトル	視聴時間	種別	内容
17	釜石の“奇跡” 子どもたちが語る3・11	約49分	震災	<p>子どもたちの証言をもとに、震災当日の出来事をアニメーションで再現。巨大津波から児童を守った岩手県釜石市の「いのちの防災教育」に学びます。</p> <p>東日本大震災で巨大津波に襲われ、1,000人を超える人たちが命を落としたり行方がわからなくなるという甚大な被害を被った釜石市。その中で、“奇跡”と呼ばれる出来事がありました。経験したことのない大地震の直後、子どもたちは日頃の防災授業や避難訓練を思い出し、大人顔負けの避難行動をとって自分たちの力で生き延びたのです。</p> <p>子どもたちがどのように考え、判断し、行動したのかを振り返り、危機管理のモデルケースとしても各界から注目される「釜石の奇跡」を、ひも解きます。</p> <p>【2013年作品】</p>
18	迫り来る大地震に備える ～そのとき、その場所に合った 身の守り方をするために～	約26分	震災	<p>南海トラフ地震や首都直下地震といった大地震が、今度30年以内に高い確率で発生すると予想されています。それ以外にも、日本では甚大な被害をもたらす大地震が、いつどこで発生してもおかしくありません。地震で命を落とさないために、私たちは日頃からどのような備えをするべきなのでしょうか。そして自宅、職場、エレベーターや電車内、スーパーやコンビニ、海岸近くなどの様々な場所で地震に遭遇したとき、その場所にに応じてどのように身を守れば良いのでしょうか。</p> <p>本作品では、実写映像を通して、これらを具体的に解説していきます。</p> <p>【2020年作品】</p>